

第7回「ガラス産業連合会新年会」報告

(社)ニューガラスフォーラム事務局

Report on the 7th New Year Party of Glass Industry Conference

New Glass Forum



(左から、板硝子/NGF、硝子繊維、電気硝子、ガラスびん、硝子製品の代表)

うす曇りでも、温暖だった1月22日(火)、午後4時からGIC新年会が、東京會館で盛大に開かれました。GICは、板硝子協会、(社)日本硝子製品工業会、日本ガラスびん協会、電気硝子工業会、硝子繊維協会、(社)ニューガラスフォーラムの6団体で構成しています。

当日は、森哲次・GIC会長(電気硝子工業会長/日本電気硝子会長)挨拶、経済産業省製造産業局・照井恵光次長の祝辞(細野局長の代理出席)、北村忠則・硝子繊維協会会長(日東紡常務執行役員)の乾杯で始り、藤本勝司・板硝子



(照井恵光製造産業局次長)

協会会長/ニューガラスフォーラム会長(日本板硝子社長)の中締めで散会しました。

来賓は、喜多見住宅産業窯業建材課長、前田日用品室長、作花京大名誉教授、牧島北陸先端科学技術大学院大学副学長、井上東大教授、一ノ瀬前早大教授などの参加を頂きました。GIC関係会社・団体、プレスなど、産・学・官・団体・報道から400名を超える参会者を頂きました。

照井次長からは、7月の洞爺湖サミットでの地球温暖化対策として、政府は、「50年までに、世界全体で温暖化ガスを半減する」目標を掲げており、その実現を目指して、技術開発、税制などを総動員する事、また、建築着工の遅れ等からの景気浮揚策の必要性などが強調されました。



(森哲次ガラス産業連合会会長)

森 GIC 会長は、以下の3つの事業に精力的に取り組んでいく方針を述べられました。即ち、第1は、地球環境・安全問題への対応であり、「ガラス環境白書」の充実化、連合会としてCO₂を2010年に13%削減すること、循環型社会を目指した3Rへの取り組み、化学物質の有害微量分析方法の標準化、RoHSやREACHなどの新たな化学物質規制への対応です。第2は、産学連携の活発化であり、昨年、豊橋技術科学大学で「ガラス技術シンポジウム」を開催して、産学の交流を強化したが、今後もこの試みを継続する事。第3は、21世紀の先端技術への取り組みとして、経済産業省の国家プロジェクト「革新的ガラス溶融プロセス」に、ニューガラスフォーラムが中心となって挑戦していくことが表明されました。最後に、会長は、「ガラスには未来と希望があります」と、GICのキャッチフレーズを唱えて、連合会の活動に関係各位の支援をお願いしました。



(400名を越えた参会者)

ところで、GIC 新年会発足以前は、各団体が個別に新年会を開いていました。で、GIC 新年会への統合化は、メンバーが顔見知りでない、ある団体の新年会は社長の集まりなので馴染まないなど、危惧がありました。しかし、近時は、会場でグループを超えた挨拶・交流が盛り上がっていますし、途中で帰る者が殆どいないと、参加者から賞嘆の声も聞こえます。更に、個別に開いた時よりも、会費は各団体で割るので安上がりです。その上、複数の団体の新年会に掛け持ちする手間が省けます。こうして、最近のGIC 新年会は、「ガラス業界の風物詩」として定着した観がします。さて、会の締めで登壇した藤本日本板硝子社長は、「関東一本ジメで締めます。この場合、7番アイアンのスタンスで身構えるように」と、実演されました。ゴルフが好きで、上手だとは聞いていましたが、正に、面目躍如です。最後の最後も、大盛り上がりでした。